

作物統計調査 令和7年産麦類（子実用）の作付面積及び収穫量

令和7年産の収穫量は前年産に比べ、小麦は1%減少、
二条大麦、六条大麦及びはだか麦は、
湿害等で作柄の悪かった前年産に比べそれぞれ 28%、7%、32%増加

【調査結果の概要】

1 小麦（子実用）

作付面積は 22 万 9,500ha、収穫量は 102 万 2,000 t で、前年産に比べそれぞれ 2,300ha（1%）、7,000 t（1%）減少した。

収穫量については、主に九州において、湿害等で作柄の悪かった前年産を上回ったものの、北海道において、高温及び少雨により細麦傾向となり前年産を下回ったためである。

2 二条大麦（子実用）

作付面積は 4 万 300ha、収穫量は 15 万 2,200 t で、作付面積は前年産並み、収穫量は前年産に比べ 3 万 3,100 t（28%）増加した。

収穫量については、主に九州において、おおむね天候に恵まれ、生育が順調に推移したことから、湿害等で作柄の悪かった前年産を上回った。

3 六条大麦（子実用）

作付面積は 1 万 8,600ha、収穫量は 5 万 7,700 t で、前年産に比べそれぞれ 900ha（5%）減少、3,600 t（7%）増加した。

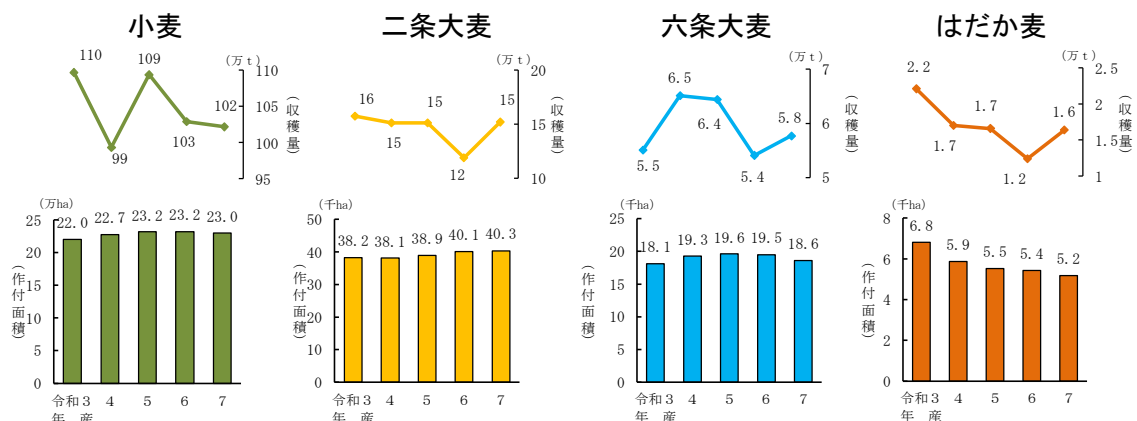
収穫量については、主産地である福井県において、おおむね天候に恵まれ、生育が順調に推移したためである。

4 はだか麦（子実用）

作付面積は 5,180ha、収穫量は 1 万 6,400 t で、前年産に比べそれぞれ 250ha（5%）減少、4,000 t（32%）増加した。

収穫量については、主に四国・九州において、おおむね天候に恵まれ、生育が順調に推移したことから、湿害等で作柄の悪かった前年産を上回った。

図1 令和7年産麦類（子実用）の作付面積及び収穫量（全国）



- 麦類（子実用）とは、小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦である。
- 子実用とは、主に食用にすること（子実生産）を目的とするものをいう。

◎ 累年データ

麦類（子実用）の作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量の推移

1 小麦

区 分	全 国			北 海 道			都 府 県		
	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量
	ha	kg	t	ha	kg	t	ha	kg	t
平成28年産	214,400	369	790,800	122,900	427	524,300	91,500	291	266,500
29	212,300	427	906,700	121,600	500	607,600	90,700	330	299,100
30	211,900	361	764,900	121,400	388	471,100	90,500	325	293,800
令和元	211,600	490	1,037,000	121,400	558	677,700	90,200	398	359,400
2	212,600	447	949,300	122,200	515	629,900	90,400	353	319,400
3	220,000	499	1,097,000	126,100	578	728,400	93,900	393	368,900
4	227,300	437	993,500	130,600	470	614,200	96,700	392	379,300
5	231,700	472	1,094,000	132,300	542	717,100	99,500	379	376,900
6	231,800	444	1,029,000	132,000	541	714,200	99,800	315	314,700
7 (概数)	229,500	445	1,022,000	133,700	497	664,800	95,800	373	356,900

資料：農林水産省統計部「作物統計」（以下4の統計表まで同じ。）

2 二条大麦

区 分	全 国			北 海 道			都 府 県		
	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量
	ha	kg	t	ha	kg	t	ha	kg	t
平成28年産	38,200	280	106,800	1,690	398	6,720	36,500	274	100,100
29	38,300	313	119,700	1,720	337	5,800	36,600	311	113,900
30	38,300	318	121,700	1,660	334	5,540	36,600	317	116,100
令和元	38,000	386	146,600	1,700	448	7,620	36,300	383	139,000
2	39,300	368	144,700	1,760	432	7,600	37,500	366	137,100
3	38,200	413	157,600	1,740	446	7,760	36,400	412	149,800
4	38,100	397	151,200	1,700	379	6,440	36,400	398	144,700
5	38,900	389	151,300	1,710	357	6,110	37,200	390	145,200
6	40,100	297	119,100	1,680	402	6,750	38,400	293	112,400
7 (概数)	40,300	378	152,200	1,760	298	5,240	38,600	381	146,900

3 六条大麦

区 分	全 国			北 海 道			都 府 県		
	作付面積	10 a 当たり 収 穫 量	収 穫 量	作付面積	10 a 当たり 収 穫 量	収 穫 量	作付面積	10 a 当たり 収 穫 量	収 穫 量
	ha	kg	t	ha	kg	t	ha	kg	t
平成28年産	18,200	295	53,600	－	－	－	18,200	295	53,600
29	18,100	290	52,400	x	x	x	18,100	290	52,400
30	17,300	225	39,000	x	x	x	17,300	225	39,000
令和元	17,700	315	55,800	17	441	75	17,700	315	55,700
2	18,000	314	56,600	19	142	27	18,000	314	56,600
3	18,100	304	55,100	x	x	x	18,000	306	55,000
4	19,300	337	65,100	13	385	50	19,300	337	65,000
5	19,600	329	64,400	14	440	62	19,600	329	64,400
6	19,500	277	54,100	20	421	84	19,500	277	54,000
7 (概数)	18,600	310	57,700	21	405	85	18,600	310	57,600

注： 「－」は事実のないもの、「x」は個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないものであることを示す。

4 はだか麦

区 分	全 国			北 海 道			都 府 県		
	作付面積	10 a 当たり 収 穫 量	収 穫 量	作付面積	10 a 当たり 収 穫 量	収 穫 量	作付面積	10 a 当たり 収 穫 量	収 穫 量
	ha	kg	t	ha	kg	t	ha	kg	t
平成28年産	4,990	200	10,000	19	349	66	4,970	200	9,940
29	4,970	256	12,700	35	371	130	4,940	253	12,500
30	5,420	258	14,000	64	172	110	5,350	260	13,900
令和元	5,780	351	20,300	149	213	317	5,630	355	20,000
2	6,330	322	20,400	195	286	557	6,140	324	19,900
3	6,820	324	22,100	498	293	1,460	6,320	326	20,600
4	5,870	290	17,000	84	213	179	5,780	291	16,800
5	5,520	301	16,600	69	251	173	5,450	301	16,400
6	5,430	228	12,400	55	313	172	5,370	227	12,200
7 (概数)	5,180	317	16,400	57	277	158	5,120	318	16,300

【調査結果】

1 小麦（子実用）

(1) 作付面積

作付面積は22万9,500haで、前年産に比べ2,300ha（1％）減少した。

(2) 10a当たり収量

10a当たり収量は445kgで、前年産並みとなった。

これは、主に九州において、湿害等で作柄の悪かった前年産を上回ったものの、北海道において、高温及び少雨により細麦傾向となり前年産を下回ったためである。

なお、10a当たり平均収量対比は97％となった。

(3) 収穫量

収穫量は102万2,000tで、前年産に比べ7,000t（1％）減少した。

図2 小麦（子実用）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量の推移（全国）

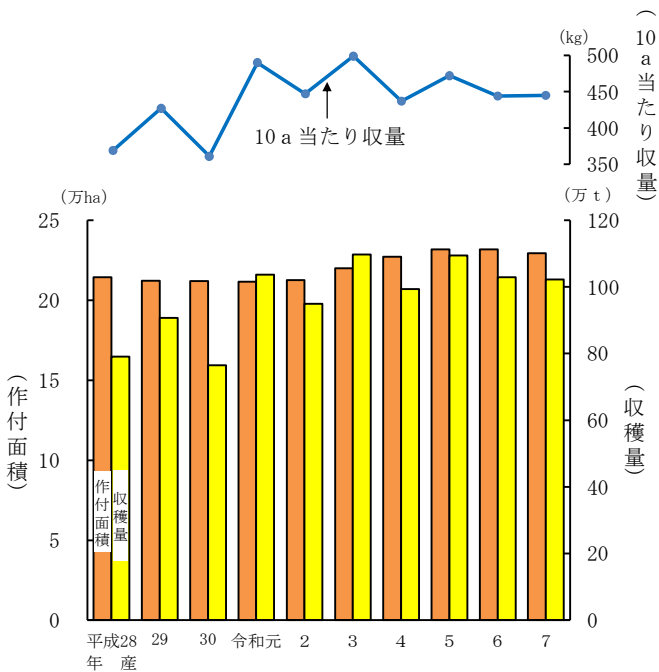
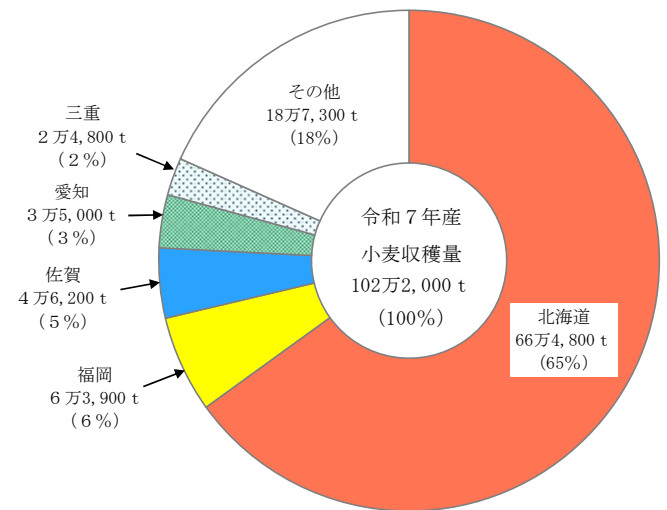


図3 令和7年産小麦（子実用）の都道府県別収穫量及び割合（全国）



注：統計数値及び割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下図9まで同じ。）。

表1 令和7年産小麦（子実用）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量		収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10 a 当 たり 平 均 収 量
				対 差	対 比	対 差	対 比	対 差	対 比		
	ha	kg	t	ha	%	kg	%	t	%	%	kg
全 国	229,500	445	1,022,000	△ 2,300	99	1	100	△ 7,000	99	97	458
北 海 道	133,700	497	664,800	1,700	101	△ 44	92	△ 49,400	93	95	525
都 府 県	95,800	373	356,900	△ 4,000	96	58	118	42,200	113	101	368

注：1 「（参考）10a当たり平均収量対比」とは、10a当たり平均収量（前年産を起点とした過去7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値）に対する当年産の10a当たり収量の比率である（以下同じ。）。

2 「△」は負数又は減少したものであることを示す（以下同じ。）。

2 二条大麦（子実用）

(1) 作付面積

作付面積は4万300haで、前年産並みとなった。

(2) 10a当たり収量

10a当たり収量は378kgで、前年産を81kg（27%）上回った。

これは、主に九州において、おおむね天候に恵まれ、生育が順調に推移したことから、湿害等で作柄の悪かった前年産を上回ったためである。

なお、10a当たり平均収量対比は102%となった。

(3) 収穫量

収穫量は15万2,200tで、前年産に比べ3万3,100t（28%）増加した。

図4 二条大麦（子実用）の作付面積、
10a当たり収量及び収穫量の推移（全国）

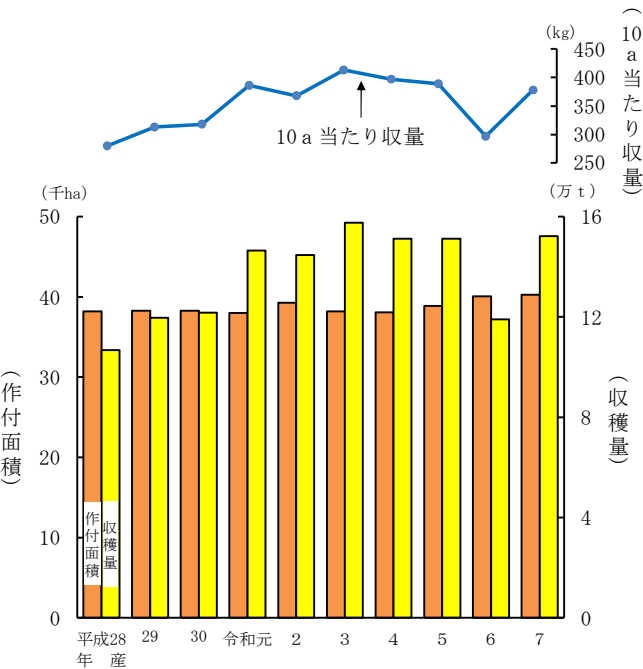


図5 令和7年産二条大麦（子実用）の
都道府県別収穫量及び割合（全国）

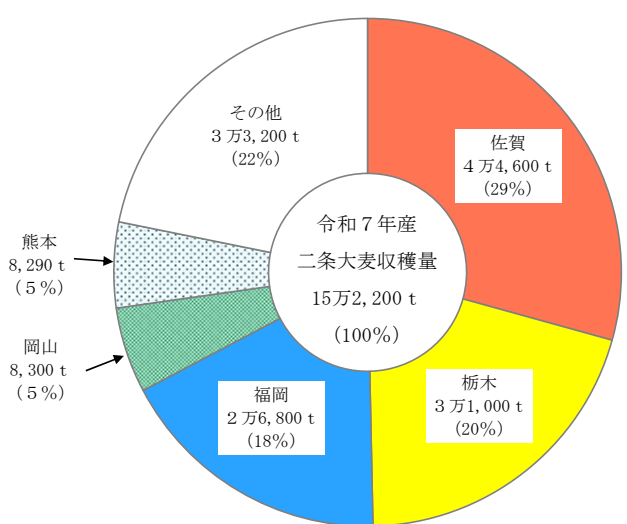


表2 令和7年産二条大麦（子実用）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量		収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量 対	10 a 当 たり 平 均 収 量 比
				対 差	対 比	対 差	対 比	対 差	対 比	%	%
全 国	ha	kg	t	ha	%	kg	%	t	%		kg
	40,300	378	152,200	200	100	81	127	33,100	128	102	372
北 海 道	1,760	298	5,240	80	105	△104	74	△1,510	78	74	403
都 府 県	38,600	381	146,900	200	101	88	130	34,500	131	103	371

3 六条大麦（子実用）

(1) 作付面積

作付面積は1万8,600haで、前年産に比べ900ha（5%）減少した。

(2) 10a当たり収量

10a当たり収量は310kgで、前年産を33kg（12%）上回った。

これは、主産地である福井県において、おおむね天候に恵まれ、生育が順調に推移したためである。

なお、10a当たり平均収量対比は101%となった。

(3) 収穫量

収穫量は5万7,700tで、前年産に比べ3,600t（7%）増加した。

図6 六条大麦（子実用）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量の推移（全国）

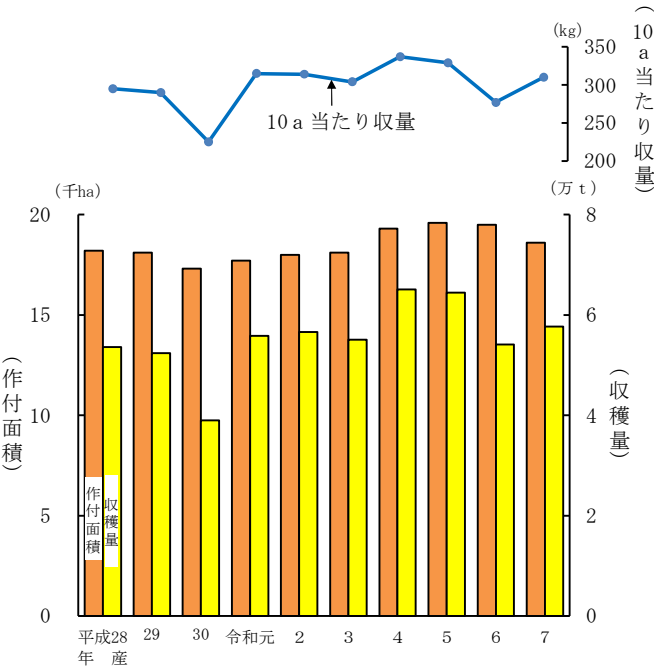


図7 令和7年産六条大麦（子実用）の都道府県別収穫量及び割合（全国）

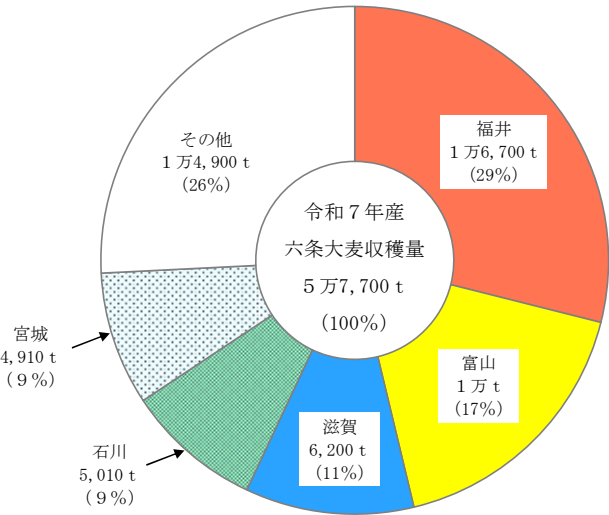


表3 令和7年産六条大麦（子実用）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量		収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10 a 当 たり 平 均 収 量
				対 差	対 比	対 差	対 比	対 差	対 比		
	ha	kg	t	ha	%	kg	%	t	%	%	kg
全 国	18,600	310	57,700	△ 900	95	33	112	3,600	107	101	308
北 海 道	21	405	85	1	105	△ 16	96	1	101	100	403
都 府 県	18,600	310	57,600	△ 900	95	33	112	3,600	107	101	308

4 はだか麦（子実用）

(1) 作付面積

作付面積は 5,180ha で、前年産に比べ 250ha（5 %）減少した。

(2) 10 a 当たり収量

10 a 当たり収量は 317kg で、前年産を 89kg（39%）上回った。

これは、主に四国・九州において、おおむね天候に恵まれ、生育が順調に推移したことから、湿害等で作柄の悪かった前年産を上回ったためである。

なお、10 a 当たり平均収量対比は 106%となった。

(3) 収穫量

収穫量は 1 万 6,400 t で、前年産に比べ 4,000 t（32%）増加した。

図 8 はだか麦（子実用）の作付面積、
10 a 当たり収量及び収穫量の推移（全国）

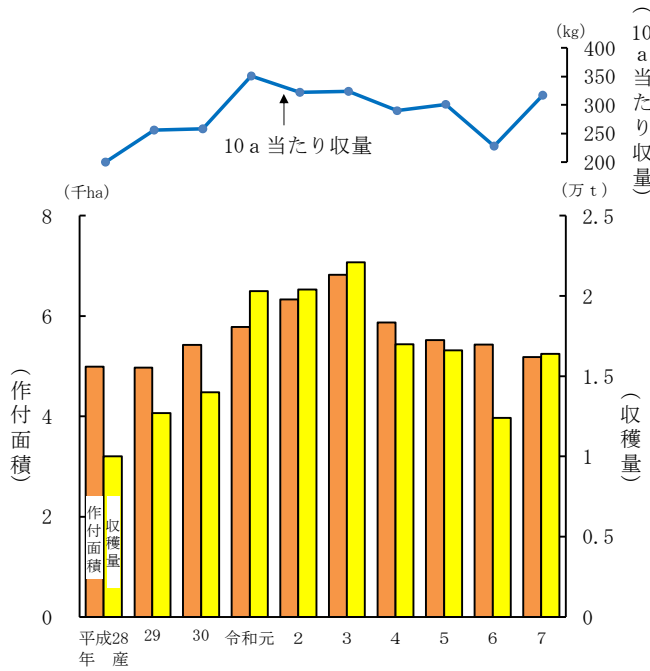


図 9 令和 7 年産はだか麦（子実用）の
都道府県別収穫量及び割合（全国）

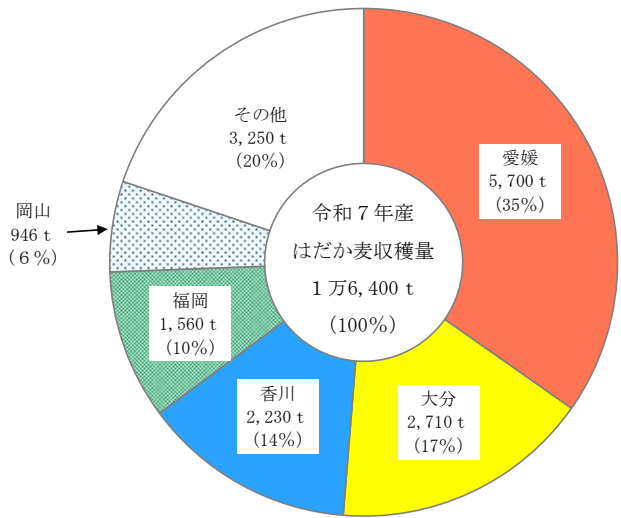


表 4 令和 7 年産はだか麦（子実用）の作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量

区 分	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量		収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10 a 当 たり 平 均 収 量
				対 差	対 比	対 差	対 比	対 差	対 比		
	ha	kg	t	ha	%	kg	%	t	%	%	kg
全 国	5,180	317	16,400	△ 250	95	89	139	4,000	132	106	299
北 海 道	57	277	158	2	104	△ 36	88	△ 14	92	110	251
都 府 県	5,120	318	16,300	△ 250	95	91	140	4,100	134	106	300

【 統計表 】

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files/data?sinfid=000040359686&ext=xls>

【 調査の概要 】

・ 面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

・ 作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

【 調査結果の主な利活用 】

- ・ 食料・農業・農村基本計画における品目ごとの生産量や作付面積等の KPI の設定及び検証のための資料
- ・ 麦類に関する生産振興に資する各種事業の推進のための資料
- ・ 経営所得安定対策の交付金算定等のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【 ホームページ掲載案内 】

- ・ 本資料は、農林水産省ホームページの統計情報に掲載している分野別分類「作付面積・生産量、家畜の頭数など」、品目別分類「麦」の「面積調査」又は「作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y8

- ・ 本資料の数値は概数値であり、確定した詳細な数値はホームページに掲載（令和8年3月予定）します。
- ・ 公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせします。

【 関連リンク 】

農林水産施策関係ページ：農林水産省>組織別から探す>大臣官房

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/>

農業生産振興関係ページ：農林水産省>組織別から探す>農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

お問合せ先

◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部
生産流通消費統計課 普通作物統計班
電話：（代表）03-3502-8111 内線 3680
（直通）03-6744-2044

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部
統計企画管理官 統計広報推進班
電話：（代表）03-3502-8111 内線 3589
（直通）03-6744-2037



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



SAFF

データの力で。
農林水産統計
Statistics of Agriculture,
Forestry and Fisheries